



第68号

平成11年12月25日

発行所 茨城県茨城郡
内原町鯉淵5965

鯉淵学園同窓会

〒319-0323 TEL.029-259-2811

振替口座 宇都宮3-1632番

印刷所 印刷
葉 双

同窓会会長就任のご挨拶

高橋 隆三

去る十一月三日の第二十四回同窓会大会において、平成十二・十三年度の同窓会会長に選出された高橋でございます。至らぬ者ではございますが、何分よろしくお願いたします。

顧みますと、昭和二十九年から四十六年まで本会事務局員、続いて六十二年まで事務局員、その後六年副会長兼常任委員長、鯉淵学園(以下学園)を退職してからも本年の大会まで六年間、副会長として執行部の任にあり、在任期間は四十五年になります。

年々会員数が増加する中で、会報の発行、会員名簿の発行、学園への協力、分収林造林の施策等を実施して参りましたが如何だったのでしょうか。本会の活動の実績は、他の同窓会と比較して、勝とも劣らない、が実感ではないでしょうか。与えられた任期、歴代の会長の名に恥じぬよう努力したいと思っておりますので、ご支援のほどお願いいたします。

平成十二・十三年度の事業計画は掲載

した大会報告書のとおりですが、特に次のことに力点をおいて運営いたしたく思っています。

一、期別の組織対応を図る

会費の納入状況を見ても一期〇十期六九%、十一期〇二期五三%、二十一期〇三期四〇%、三十一期〇五十一期一八%で、卒業期により大きな差があります。また、支部会の出席状況を見ても若い卒業生の少ないのが現実です。茨城支部では組織の強化策として、先の支部総会から期別代議員制がとられ、出席した顔触れを見ると、その効果が明らかに現われています。本会としても期別の組織的対応策を検討し、その具体化を図ります。

二、事務局体制の改善

学園に在職する卒業生は世代が一新しました。また、事務局長を学園外から選出したこともあってか、事務局体制に乱れがみられます。学園にもご協力頂き事務局を充実します。

三、学園と本会の相互協力

学園の入学者はこのところ定員割れが続く、十八才人口の減少と相俟って場合によっては、近き将来大幅な減少も危惧されます。学園は生き残りのために英知を結集して対策を立てるべく、その第一段階として、学園を取り巻く環境、学園の現状の分析・評価に関するワーキンググループを設置して、このほどその報告

書がまとめられました。こうした現状を見ると、学園と本会が相互に協力して事に当たる必要があります。特に、学生募集・学生進路指導への協力が大切なことは言うまでもありません。難しい社会情勢の中で活躍する同窓各位にご意見をお寄せ頂き、それを生かした取り組みをいたしたく思います。皆様のご理解とご支援をお願いします。

第二十四回同窓会大会報告

平成十二・十三年度役員刷新 福丸会長から高橋新会長へ

第二十四回同窓会大会は、前大会からの懸案事項であった役員若返りによる若年会員の積極的な同窓会活動への参加を主眼として、十一月三日、学園において開催された。執行部から提出された全議案について、ほぼ提案通り可決され、新体制の下、平成十二・十三年度事業活動がスタートした。

当日は第五十四回学園祭で賑わう中、定刻十三時三十分、出席者五二名で開会した。

大会は会長挨拶に続いて、農民教育協会常務理事・木村春夫様並びに学園長・穴戸弘明先生からそれぞれ同窓会大会に対する祝辞と同窓会活動に向けての期待等を賜り、更に元農水省農産園芸局長、現参議院議員・日出英輔様からの祝電が披露され本題に進行した。

大会人事

次の方々を選任、任命する。以下、敬称略。

議長選任	梅崎孝臣(13期)	茨城支部
議事録署名人	大島武男(9期)	"
書記任命	志賀隆男(11期)	"
	中橋友幸(48期)	"
	大関真(50期)	"

審議事項

平成10・11年度事業並びに同決算及び監査報告については、第二十三回大会決定の計画並びに予算に準拠した実績であり、提案通り承認された。なお、決算状況は別掲「平成10・11年度決算書」の通りである。

同窓会会則改正においては、副会長一名増員による本部執行体制の強化、代議員選出の適正化、事務局設置の明文化、実体に整合した条文整理(案)が提案され、一部常任委員会に検討を委ねられたが、大筋承認された。

平成12年・13年度事業計画では、従来活動の強化・継続方針、都道府県単位とした「学生進路活動協力委員」の制度化とその普及推進を図り、卒業生の進路・就職活動への積極的な情報提供、会員簿発行事業などが承認された。

学園側からの要請に伴う記念樹保全調査についても、学園と協議し、共同事業として実施することも併せて承認された。同時に承認された予算は、別掲「平成10・11年度予算書」の通りである。

役員選出

役員推薦委員会の設置を決め、茨城県支部長・倉重 夫(10期)、栃木県支部長代理・大竹勝次(14期)、東京都支部長・住吉達男(17期)、神奈川県支部長・北村康祐(2期)、事務局長・岩持文彦(7期)の5名を委員に任命して、平成10・11年度役員候補者の推薦を委任した。

平成10・11年度決算書

(自 平成9年10月1日
至 平成11年9月30日)

1 一般会計

(1) 収支明細表

ア 収入の部

(単位：円)

科目	予算額	決算額	増減	摘要
1 会費	6,000,000	6,075,000	75,000	@3,000円×納入者 2,025名 【内訳】 年度会費 911名 終身会費 1,114名
2 寄附金	100,000	104,500	4,500	
3 繰越金	326,605	326,605	0	平成8・9年度より繰越
4 雑収入	373,395	326,701	△ 46,694	預貯金利息 294,401円 寮史代金1冊分 8,000円 学園シンポジウム参加助成金(学園より) 24,300円
合計	6,800,000	6,832,806	32,806	

イ 支出の部

(単位：円)

科目	予算額	決算額	増減	摘要
1 会議費	950,000	813,542	136,458	総会費 320,153円 常任委員会費 485,395円 監事会費 7,994円
2 事務費	1,570,000	1,523,122	46,878	通信費 542,917円 封筒印刷作成費 277,350円 宛名ラベル作成費 460,969円 納通発送作業費 85,554円 振替手数料 81,300円 雑費 75,032円
3 事業費	3,550,000	3,788,545	△ 238,545	
(1) 会報費	1,950,000	2,115,963	△ 165,963	会報印刷費 1,031,625円 通信費 904,460円 会報発送作業費 179,878円
(2) 組織強化費	500,000	585,800	△ 85,800	都道府県支部総会 派遣旅費 425,800円 祝い金 160,000円
(3) 名簿調査費	100,000	86,782	13,218	郵便番号7桁変換委託費等
(4) 行動費	1,000,000	1,000,000	0	事務局長行動費
4 分収林費	500,000	103,354	396,646	保育調査管理費 49,883円 森林共済保険料(保証期間2年) 53,471円
5 負担金	130,000	87,155	42,845	農業大*学校同窓会 全国連盟会費 86,000円 送金・手数料 1,155円
6 予備費	100,000	37,865	62,135	寮歌作詞者表彰費
合計	6,800,000	6,353,583	446,417	

ウ 収支残高 479,223円 (収入－支出・平成12・13年度に繰越)

推薦委員会を代表して、事務局長から推薦会議結果報告を受け、満場一致で別掲の通り平成十二・十三年度役員が承認された。

懇親会

大会終了後、休憩を挟んで懇親会場へ移動し、新たに学園教職員及び学生自治会役員を迎え、遠来の8期生・中島孝氏（鹿児島県肝属郡串良町・町長）の乾杯で開宴した。立食パーティーによる和やかな新旧交流、更には準会員である学生との交流のうちに時の流れが早く、学園祭の一大イベント、秋の夜空に華麗に舞う花火（花火師、大出利明氏・栃木34期）を鑑賞し、終宴とした。



2 特別会計決算書

(単位：円)

科 目	前期末繰越金額	当期収入金額	当期支出金額	当期末繰越金額
1 基本金会計	11,532,040	1,627,500	0	13,159,540
2 終身会費会計	19,437,000	1,247,000	3,342,000	17,342,000
3 五十年史会計	680,830	90,000	0	770,830
4 仮受金会計	14,500	0	14,500	0
5 会員名簿会計	△ 2,526,708	1,771,500	159,328	△ 914,536
合 計	29,137,662	4,736,000	3,515,828	30,357,834

(注) 会員名簿棚卸資産 ¥914,536円（第12版429冊）、第11版120冊は廃棄処分。

3 特別会計収支明細表

(単位：円)

科 目	収入金額	支出金額	摘 要
1 基本金会計	1,627,500	0	
入 会 金	855,000 772,500		平成10年新入生 114人×@7,500 平成11年新入生 103人×@7,500
2 終身会費会計	1,247,000	3,342,000	
終 身 会 費	1,247,000		平成10・11年度納入者 50人分 平成10・11年度分
年 度 会 費		150,000	現年度納入者 50人×@3,000
年 度 会 費		3,192,000	過年度納入者 1064人×@3,000
3 五十年史会計	90,000	0	
販 売 代 金	90,000		五十年史15冊×@6,000
4 仮受金会計	0	14,500	
年 度 会 費 金		13,500	平成10・11年度分
寄 附 金		1,000	
5 会員名簿会計	1,771,500	159,328	(計506冊)
販 売 代 金	1,020,000		一般 289冊×@3,500 (差額500円を含む)
販 売 代 金	399,000		学生 114冊×@3,500 (10年新生配布分)
販 売 代 金	360,500		学生 103冊×@3,500 (11年新生配布分)
通 信 費		111,160	名簿発送郵送料金
替 手 数		840	郵便振替受払料金
振 保 管		5,250	名簿管理一式
名 簿 作 成		24,753	宛名ラベル印刷作成費
ラ ベ ル 作 業		17,325	名簿梱包発送作業一式
合 計	4,736,000	3,515,828	

平成12・13年度予算書

(白 平成11年10月1日)
(全 平成13年9月30日)

1 収入の部

(単位:円)

科 目	予 算 額	前年度決算額	増 減	摘 要
1 会 費	6,000,000	6,000,000	0	@3,000×2,000名分
2 寄 附 金	100,000	100,000	0	
3 繰 越 金	479,223	326,605	152,618	10・11年度より
4 雑 収 入	320,777	373,395	△ 52,618	預金利息
合 計	6,900,000	6,800,000	100,000	

2 支出の部

(単位:円)

科 目	予 算 額	前年度決算額	増 減	摘 要
1 会 議 費	950,000	950,000	0	大会費・役員会費等
2 事 務 費	1,570,000	1,570,000	0	納通印刷・窓開封筒作成・納通発送作業・宛名ラベル作成・通信費・振替手数料・雑費等
3 事 業 費	3,650,000	3,550,000	100,000	
(1) 会 報 費	2,000,000	1,950,000	50,000	会報印刷・封筒ラベル作成・発送作業委託・通信費等
(2) 組織強化費	550,000	500,000	50,000	派遣旅費・支部総会祝金
(3) 名簿調査費	100,000	100,000	0	所在不明者追跡調査費等
(4) 行 動 費	1,000,000	1,000,000	0	事務局長行動費
4 分 収 林 費	500,000	500,000	0	保育管理費・森林保険料
5 負 担 金	130,000	130,000	0	農大校同窓会全国連盟会費
6 予 備 費	100,000	100,000	0	記念樹保全調査費等
合 計	6,900,000	6,800,000	100,000	

鯉淵学園同窓会 平成12・13年度役員名簿

役 職	氏 名	卒	住 所
会 長	高 橋 隆 三	9	茨 城 県
副 会 長	倉 重 夫	11	〃
〃	住 吉 達 男	17	東 京 都
副会長兼常任委員長	山 本 英 治	31	茨 城 県
監 事	梅 崎 孝 臣	13	茨 城 県
〃	伊 藤 喜 代 次	26	東 京 都
〃	涌 井 義 郎	31	茨 城 県

同窓会会長を退任するにあたり

前会長 福丸博房（埼玉・9期生）

会員各位には、ご健勝にて、ご活躍のことと、お慶び申し上げます。

日頃、鯉淵学園同窓会に対し、各都道府県支部長を先頭に会員の皆さん方に、ご協力ご支援いただき厚くお礼申し上げます。

私は、平成十一年十一月三日に開催しました第二十四回同窓会大会で会長を退任いたしました。

在任中は会員をはじめ、協会の二瓶理事長、宍戸学園長、学園の教職員の皆さん並びに同期の方々に、いろいろとお世話になり有難うございました。厚くお礼申し上げます。

顧みれば、平成二年に東京支部から同窓会本部の役員になり同年の大会で副会長に選任されました。

平成四年五月には農民教育協合理事長の諮問機関として設置されました「鯉淵学園の改組等に関する検討委員会」の委員に（委員二名・座長・全国農業改良普及協会会長）染谷一氏（茨城・24期生）と同窓会代表として参加しました。

委員会の検討結果は学園を四年制の専修学校に衣替えることで、平成五年三月に報告、それが理事会で了承・決定されました。

ご承知のとおり平成七年四月から学園は「農業・生活専門学校」としてスター

トしました。

平成十一年三月にはその一回目の卒業生が社会人となり、同窓会に52期生として仲間入りしました。

それに続く学生が学んでおり、現在に至っているところです。

平成五年二月に渡辺正信会長（茨城・7期生）の逝去により、会長の残任期間を会長代行として、その任に当たりました。

そして平成五年十一月の第二十一回の大会で会長に選出され、会長として今日まで学園の入学式、卒業式に出席、また、各県支部総会等に参加し会員の皆さんとの親睦と同窓会の強化、発展のため、また、協会の理事としても、この六年間勤めて参りました。

私の在任中の最大の仕事は、平成七年の学園創立五〇周年記念事業への取り組みでした。

この事業については会員の多くの方に発起人になっていただきました。その方々の働きもあって会員をはじめ関係機関の皆さんから募金活動等に対しご賛同とご支援をいただきました。

その成果が新図書館の建設・整備であり、五〇年史の刊行等を成し上げた事でした。また同年十一月に開催しました学園創立五〇周年記念式典と併せて、この

事業を成功させていただきました。本当に有難うございました。

今日まで私と共に、その役目を果たして下さった常任委員の皆さんに心からお礼を申し上げます。

特に岩持文彦事務局長（茨城・7期生）には、学園まで二時間という道のりにもかかわらず、長きにわたり同窓会の事務を適正に処理して頂き感謝し厚くお礼申し上げます。

私は、今年四月開催の常任委員会に、この第二十四回大会で退任し、次期会長には茨城支部からお願いしたいことを申し上げましたところ、こころよく引き受けていただきました。

お陰で、大会での新役員への選出に当っては、スムーズに会長を始め常任委員を選出・満場一致決定していただきました。

高橋隆三新会長（茨城・9期生）は、私と同期生であり、卒業後学園に永年になたり勤務され、同窓会のこと常任委員、常任委員長、副会長と各役職を経験された方です。

学園のこと、同窓会のことについて誰よりも精通されております。会長として最も適任者であり、安心してバトンタッチさせていただきました。

今後、高橋新会長のもと同窓会大会で決定されました事業計画が会員の協力により遂行され、同窓会がますます発展、前進することをお願いするとともに、会員の皆さんのご健勝と、ご多幸をご祈念申し上げます。今後は一会員として頑張るこ

とをお誓いしまして、退任の挨拶とさせていただきます。

（追記）

学園創立五〇周年記念事業で建設しました図書館については、私の勤務する「木材利用推進中央協議会」が木材利用の推進の一貫として出版しております平成十年度版「写真と図面で見える「木」の施設」木造事例集その13に全国から集めた七一事例の一つとして掲載し、記念とさせていただきます。なお、これは全国の市町村、建築家、設計者、施工者等関係者に購読されている本です。



学生募集協力のお願について

教務部長 安藤 義道

一、学園の近況報告

暖冬のごとき常陸野でも、師走の声を聞くようになりようやく紅葉のシーズンを迎えました。先日には外の水道も凍りました。しかし、近年は暖冬に加えて、校内の幹線道路が舗装されて、鯉淵名物の霜柱は古き遠い昔の物語となってまいりました。

最近、訪れる卒業生のみなさんからよく、学園の中が明るくなった、周辺がすっかり都会化してきたなどというお言葉を頂戴します。それは友部町を中心に都市化が進んできたからでもあります。職員と学生が一丸となって学園内外の環境美化に努めてきた結果でもあります。

それら努力の甲斐もあって今年も学園祭が盛大に挙行されました。校内に駐車できなくて、広くなった男子寮周辺の道路にまで車があふれ、晴天も加わってグランドはとにかく凄い人出でした。フリーマーケットが華やかに広げられ、恒例となった学生保護者の協力による全国物産展や農場の農産物の直売には開始前から買い求めようとする人たちの行列が続きました。また、屋台では夜間まで地域住民と学生の交流も盛んでした。さらに今年初めての試みとして家庭菜園の相談

室が設けられました。ここにも多くの人たちが訪れていました。夜には銀杏並木のイルミネーションが夜を徹して灯され、最後の日には34期卒の大出利明さん(栃木県出身)の協力で花火も数多く打ち上げられました。

マスコミの取材も相変わらず多く、十一月二十四日には小雨の中、十二月二十九日放送予定のNHKの「BSフォーラム：二十一世紀 日本農業への提言」が農場で実習風景や、学生インタビューなどを収録していきましました。

二、十一月十三日推薦入試を実施

学園に入試が導入されて三年目に入りました。今年も十一月に十二年度の推薦入学試験が実施されました。志願者は申し合わせたように、一昨年と昨年同様五〇名でした。昨年に比べると農業経営科学科の応募者が増え、逆に生活栄養科学科が減りました。内訳は農業経営科学科三名、生活栄養科学科一八名です。もうすでに合格発表をしていますが、農業経営科学科の一名を除き合格が決まっております。出身先で多いのは茨城県が九名、青森県と山形県が三名、福井県・新潟県・兵庫県・鹿児島県などが二名などとなっております。この中には卒業生の子

弟二名や推薦者二名も含まれています。試験といっても一時間の作文と十分間の面接だけです。問題も公表していますし、高校側でも最近はずっかり作文や面接指導が行き届き、高校生たちはそつなくこなしていきまします。

三、学生募集協力のお願いと願書受付について

ふれましたように、偶然とはいえ、この三年間推薦入学の志願者は五〇名で全く同じです。ちなみに、その結果としての志願者数ですが、十年度が一八名、十一年度が二〇名、入学者数に至っては十年度一〇三名、十一年度九九名で大幅な定員割れの状態です。入学者数が志願者数を大きく下回るのは、他の大学との併願などで流れたことが考えられます。いずれにしろこのままでは、また将来的に危うい状況が生まれると職員一同危機意識を感じております。

今年も何とか定員を確保しようと二千万円を越す普及宣伝費に加え、職員も夏休みを返上して高校訪問をして学生確保に努めました。訪れた高校は一〇〇校を越えます。マスコミの取材にもできるかぎり協力して、学園の名前を普及することにも努めています。しかし、少子化の時代の中では、大学といえども高校訪問をして学生確保をする時代です。どうかこれから引き続き行われる一般入試の前、中期、後期試験でも、今まで以上に

学園の普及宣伝と合わせ、一人でも多くの学生を紹介、推薦をして頂ければ幸いです。卒業生推薦については特別考慮することになっておりますので、紹介の折には推薦状を添えて頂ければと思います。詳細は教務係(TEL〇二九一二五九一二八二一、FAX〇二九一二五九一六九六五)までお問い合わせ下さい。



平成12年度 鯉淵学園 学生募集要項

1. 募集対象と募集人員

- ① 募集対象：高等学校を卒業したもの（見込みを含む）
または学校教育法施行規則第77条の5に規定する者
- ② 募集人員：農業経営科学科（4年制）80名
生活栄養科学科（4年制）40名

2. 出願手続

出願者は下記書類と選考料を所定の封筒に入れて鯉淵学園事務部に提出してください。

- ① 入学願書：本学園所定の用紙を使用
- ② 受験理由書：本学園所定の用紙を使用（800字以内）
- ③ 健康診断書（平成12年3月卒業見込みの者は在学中の健康診断書で代替できます）
- ④ 高等学校の調査書（各科目の評定、学習成績概評、成績段階別人数、所属する科の当該学年学生数、行動および性格の記録等をはっきり記入してください）
- ⑤ 選考料 29,000円（郵便為替にして出願書類に同封してください）
- ⑥ 受験票：A票、B票ともに必要事項を記入し写真を貼ってください。（両票は切り離さない）
- ⑦ 受験票送付用封筒：宛名（受験者の住所氏名）を明記し、80円切手を貼ってください。
（なお、現住所の市町村長または農業協同組合長などにより、本人の資質、将来への希望、家庭の事情などを斟酌した推薦を得た場合はその推薦書も上記の応募書類と一緒に提出してください）

3. 4年制大学との併願制について

一般入学（前期、中期）応募者に限り、4年制大学との併願を認めます。
併願希望者は、願書提出時に併せて所定の「併願希望書」を提出してください。
また、合格発表後ただちに所定の「入学手続き延期願い」を提出してください。
入学手続き延期期限は平成12年3月17日までとします。
一般入学（後期）については専願制のみとします。

4. 願書受付期間、試験日および合格発表日

【一般入学】

〈前期〉

願書受付 平成11年12月1日(木)～12年1月13日(木) 当日消印有効とします。
試験日 平成12年1月22日(土) (場所：鯉淵学園)
合格発表 平成12年1月28日(金) 本人に文書で通知します。

〈中期〉

願書受付 平成12年1月14日(金)～12年2月17日(木) 当日消印有効とします。
試験日 平成12年2月26日(土) (場所：鯉淵学園)
合格発表 平成12年3月3日(金) 本人に文書で通知します。

〈後期〉

願書受付 平成12年2月18日(金)～12年3月17日(金) 期限内必着とします。
試験日 平成12年3月23日(木) (場所：鯉淵学園)
合格発表 平成12年3月27日(日) 本人に文書で通知します。

5. 選考方法

一般入学：両学科とも提出書類、面接、小論文についての総合評価によって選考します。

試験（面接、小論文）は下記の日程で鯉淵学園で行います。

〈前期〉平成12年1月22日(土) 午前10時から

〈中期〉平成12年2月26日(土) 午前10時から

〈後期〉平成12年3月23日(木) 午前10時から

試験当日の時間等は別記の入学試験実施要領を参照してください。

試験日にどうしても出席できないと予測される場合は出願時にご相談ください。

進路指導協力委員依頼について

鯉淵学園 企画渉外

進路指導の現状について

鯉淵学園では、一昨年から進路指導の時間を、四年生対象に設け就職指導の強化に努めて参りました。しかしながら、現在の不況の中で、就職戦線は依然として厳しい状況にあります。十月二十五日現在の四年生進路調査では、一三三名中六〇名が自営就農または就職内定を得るにとどまっています。うち、経営科学科は自営就農一一名、自営外就農二名、農業研修六名（うち海外研修四名）、J A及び経済連一一名、青果市場三名、農業関連企業一〇名であり、生活栄養科学科では、J A一名、公務員一名、病院一名、福祉施設一名、生協一名、食品関連企業等四名となっています。

進路指導協力委員の制度について

学生の多くは茨城県以外の出身者であり、学生の多くは地元に戻り地元で就職をしたいという意向を持っています。しかし、地元からの求人が少なく、その情報も十分に得にくいのが実状です。昨年度より同窓会委員のみなさまに進路指導により協力していただくべく協力委員制度をスタートさせていただいております。昨年度同様、今年度もこの進路指導の協力委員制度にご協力賜りたくお願い申し上げます。なお、進路指導協力委員制度

の内容は以下の通りです。

- ①各都道府県ごとに進路活動協力委員を委嘱します。農業経営科学科、生活栄養科学科の両学科の学生に対応していただけるように、都道府県毎にできるだけ二名の方に委員をお願いいたします。
- ②協力委員には、学生からの要請に応じて、無理のない形での進路に関する情報提供と関係の同窓生のご紹介をお願いいたします。
- ③協力委員の任期は二年程度とし、人選は同窓会役員にお願いします。

進路指導協力委員活動について

学生に協力委員への進路活動について調べましたが現時点ではご相談に伺っていないという状況でした。今後、冬休みから卒業式にかけて最後の追い込みを駆けこ相談に参ることがあるかと思えます。初めての試みであり、いろいろとご迷惑をおかけすることになります。ご迷惑をご指導いただきたくお願い申し上げます。

茨城県支部総会開催される

茨城県支部長 倉重 一夫（日期生）

支部・同期の動向

茨城県支部は会員が八〇〇人を越えたのを記念して平成十一年から卒業期別代議員総会制をとり入れ、十一月二十一日から鯉淵学園五番教室で新制度初の総会が開催されました。

代議員の皆さんにはご多忙にも拘わらず四一名の出席を得て慎重に協議いたし、平成十二年・十三年度事業計画が設定されました。以下決定事項の報告をいたします。

一、組織強化対策

茨城県支部の会員は総人数、八一八名になりました。

これまで支部活動は地域別分会組織育成に努めて参りましたが今後は、分会組織に加えて卒業期別組織を強化することになりました。

各卒業期別役員（代議員）は、卒業期別に複数の代議員を次期総会までに選任し期別連絡網を設定するなどして会員の連携を強化することになりました。

二、優良活動事例の紹介

本部会報の発行に併せて茨城県支部使用を充実し会員の優良活動事例を紹介いたします。

三、祝電・弔電制度の設定

期別組織を強化することによって会員の連携を高め、会員の結婚には祝電、死亡には弔電をおくる等して組織の連携強化をはかります。

期別代議員は対象者が生じた場合は鯉淵学園同窓会事務局に連絡して下さい。

四、卒業期別代議員総会の充実

①平成十一年度総会から代議員総会制をとりいれました。

②代議員の選出は、今回は諸般の事情から役員会で期別代表者を推薦し公報で会員の承認を得る事後承諾制を取らせて戴きました。

③平成十三年度の次期総会までには期別に複数の代議員を選出していただきます。

代議員の任期は二期（四年間）が望ましいと考えます。

④今後、各連絡事項は、会報の外、卒業期別代表者を通して連携強化します。

五、学生への進路指導協力委員の推薦

本県支部として、次の協力委員を選出しました。

10期生 市野澤弘氏（JA茨城みどり
理事長）総合担当

11期生 倉重一夫氏（同窓会茨城県支
部長）総合担当

16期生 須田哲也氏（JA中央会・各
連合会常任監事）農業経営学科担当

19期生 船橋和江氏（公務員・茨城県
農林水産部職員）生活栄養学科担当

22期生 西村勝夫氏（公務員・茨城県
農林水産部職員）農業経営学科担当

六、支部財政の確立
年度毎に納入していた会費を一回で納
入する終年会費に改正し会員の負担を軽
減します。

●終年会費は一人当たり五、〇〇〇円と
なりました。

●平成十二年度中に納入していたくよ
う手続きをいたします。

七、会員名簿の管理

支部会員名簿及び市町村別会員名簿を
加除修正し会員間の連携強化に努めます
八、同窓会本部活動への協力

同窓会地元支部として同窓会本部の事
業活動に積極的に対応すると共に常任委
員・事務局体制を強化するなど本部活動
に協力します。

推薦常任委員

11期生 倉重一夫氏（茨城支部長）

11期生 真下寿宣氏（県中央地域）

12期生 本宮好美氏（県南地域）

13期生 稲川正夫氏（県西地域）

16期生 須田哲也氏（県北地域）

25期生 根本保夫氏（鹿行地域）

第十六回三期生会

半世紀を超えて母校訪問

平成十一年九月二十八・二十九
日の両日、三期生会が開催されま
した。北海道から九州までの各地
から五十一名（夫人同伴者九名）が
集まり、初日はつくばグラントホ
テルで総会、来年度は九州で開催
することを決定し、夜は懇親会で
旧交を温め、二日目は筑波山に登
り、次いで鯉淵学園を訪問しまし
た。学生食堂で職員の皆さんの心
尽しの昼食をいただき、学園の近
況等を伺い、白田・松川先生及び
西村（4期）、砂田（5期）、吉澤
（旧姓田代）さんとの交流もあり
ました。

卒業以来、半世紀を経て初めて
学園を訪問した人も多く、学生食
堂周辺は昔日の面影はなく、保然
とした状態でしたが、木立を抜け
てグラウンド、学園事務所付近に
近づくと、漸く五十年前の記憶が
蘇り、此処、彼処と思いが湧き
懐しく感激も一人でした。かくし
て半世紀を超えての学園訪問も終
り、皆元気に、思い出を胸に秘め
て水戸駅で再会を約して散会しま
した。
（文責 遠山）



札幌大会 幹事 佐藤 存

四期生の会 終了の報告

前略 十月六日（水）～七日（木）お
陰をもち天候にも恵まれ誠に盛会の裡に
終わることができました。札幌は八日か
ら天候急変、氷雨が降り寒くなりました。
お申し込みの会員は二七名でありまし
たが、当日出席は二四名、ご夫人の出席
が八名もあり、なかなかの賑いでありま
した。北海道の観光を兼ねて奥様孝行を
なさったのでしょうか。今回は多分、皆
さんのお気に召す結果となったかと勝手
に思っております。

さて、総会は、幹事の一人である梅木
兄の司会で開会し、議長に岩手の鷹野兄
を選出致し、短時間の間に原案通り決定
されました。

私から総会当日までの経過と名簿中の
欠席者のご事情の説明を致し、さらにご
寄付などのご披露も致しました。中村恵
一兄から前回までの会計報告がありました承
されました。また、現在中村兄が執筆中
の学園創立史及び同期自分史の編集につ
き、経過を報告されました。

満永兄（協会評議員）より、学園の現
状と今後の課題及び協会運営などにつき
詳細にご報告があり、一段と認識を深め
ました。また、十一月三日開催の同窓会
大会、会長交代の意向と後継の問題、規
約改正、学生の進路指導などについても

説明がありました。
 今回の会場及び開催時期について審議され、議長自ら岩手県において十月二十日前後に開催したい旨の発言があり、全員の賛同を得て決定されました。鷹鷲兄及び箱石兄が準備にかかる事とし、盛岡平泉、八幡平その他を候補地に挙げ、その中から最適の地を決めたいとのことであります。明後年は関東圏となる予定です。

記念写真撮影の後、午後六時より待望の懇親会に入りましたが、先立ってこれまで逝去された仲間二〇人のために、敬虔な黙とうを捧げご冥福を祈りました。座席入り乱れての歓談で二時間は瞬時に過ぎ去り、多くの心を残しながら、明年の再会を約して散会しました。

秋田県鯉淵学園同窓有志の集い

◆とき 平成十一年十月三十日(土)

午後四時

◆ところ 横手市駅前

『ゆうゆう駅前温泉』

◆出席者の紹介(記念撮影) 一五名
 写真説明

前列左より

武藤(14期)、大高(旧山本)(9期)、

佐野代表(7期)、伊藤(19期)、

高橋(忠)(13期・大潟村)、

西田(14期)幹事

後列左より

広田(16期)、堀川(23期・大内町)

小嶋(15期)、斉藤峰子(23期)、

小川(19期)幹事、鈴木みよ子(23期)、

助川(孝)(22期)、大沼(祐)(18期)、

三列最央

藤原(雅)(23期)



有機農業のとりくみについて

作物・園芸コース助教授 涌井義郎(31期卒)

近年、農業の形態はとも多様化してきています。経営形態はもとより、農業技術は多極化しています。

バイオ利用と高度な施設化、集約化の技術が進む一方で、環境保全や農業の持続性を目的とする有機農法や自然農法が注目されています。

時代の要請は、二十一世紀以降の地球環境を永く保全しつつ、増加する人口を支える安全かつ持続的な食料生産が主題となりつつあります。近年の入学者の多くもこれを強く意識しており、鯉淵学園は要請にこたえるべく、数年前に「環境保全型農業論」(中島紀一教授)を導入しました。

環境保全型農業論は技術論であるとともに農業経済や生活環境までを視野に入れた総論科目ですから、当然これを受けた実践的技術科目がなければなりません。そこで、ようやく今年度から以下に紹介する「有機農法論」をスタートさせています。

・有機農法論

この科目の設置は、遅きに失したと感じています。しかし、最新の知見を活用し、科学的な根拠を示しつつ、合理性のある有機農業の可能性を紹介したいと、担当する筆者は汗を流しています。

有機農法は、別名「微生物農法」ともいわれ、土壌中の微生物の生態を重視し、

このはたらきをうまく活用する農法です。微生物相互や他の生物との共生や拮抗関係を知り、作物への関わり方を学ぶに従って、近代技術の取捨選択の目も養われるように思います。

また、過剰に排出投棄されている有機物資源の循環利用が大きなテーマですから、畜産や都市生活との提携または複合化が課題です。

堆肥やボカシ肥料の価値、炭や米ぬかの威力、輪作や間混作、適期栽培の意匠、不耕起栽培、対抗植物や共栄作物、バンカープランツやバリアー植物、訪花昆虫や天敵利用、植物活性液や自然農業、各種資材の選択基準、汚水浄化、食生活との関わり等々。

上の紹介はほんの一例です。全国の実践事例を紹介しながら、学際的な農業技術のおもしろさと意義を学生に分かってもらうと努めています。

・同窓会員の事例を紹介ください

同窓会会員諸氏の中にも、環境保全型農法や有機農業、自然農法などを実践されている方々が多々おられることと思います。それぞれに独自の技術開発と取り組みがあることと思います。

後輩の学生たちに、ぜひ皆さんの実績をおすそ分けしたいと考えます。どうぞ、担当の涌井まで、情報をお寄せ下さいますようお願いいたします。

「現代農民のライフ・ヒストリーと就農行動」

安藤義道著

【本書の内容】

- ・農民教育とライフ・ヒストリー論
- ・農民教育の展開
- ・現代農民のライフ・ヒストリー論
- ・日茨城県下農民のライフ・ヒストリーと就農行動

- ・調査地設定と調査手法
- ・学卒即農民の就農行動
- ・Uターン農民の就農行動
- ・新規参入農民の就農行動
- ・大規模経営農民の就農行動
- ・女性農民の就農行動
- ・高齢農民の就農行動
- ・高齡農民の就農行動
- ・農民文学・農業日記と農民教育の展開
- ・文学・日記を取り上げる意味
- ・文学にあらわれた農民の就農行動
- ・農業日記にあらわれた農民の就農行動

- ・大田卯の農民文学論と農民教育論
- IV 「説得論理」の農民教育から「納得論理」の農民教育へ

はしがき

現代日本の農政の最重要課題のひとつに農業及び農村の「担い手」育成の問題

がある。平成十年九月提出の食料・農業・農村基本問題調査会の答申でも「意欲ある多様な担い手の確保・育成と農業経営の発展」の一環があるが、「食料・農業・農村基本法」の成否もひとえにこの問題が握るといっても過言ではない。どんなにすばらしい政策を立てても、それを実現にもっていく「人」(担い手)を得ずしては単なる「絵に描いた餅」に終わる。

かつて、明治大正期の農政に大きな影響力を及ぼした横井時敬は、「農業米えて農村衰える」といったが、農学研究者をはじめ農業指導者のなり手は多い。しかし、担い手となる農業実践者のなり手は少ない。特に学歴が高くなればなるほどこの傾向は強い。今や日本の新規学卒就農者数は新規医師の数よりはるかに少なく、その数は三分の一から四分の一という実態である。担い手の確保は現代日本農業においてはそれほど容易ではない問題なのである。

農村に残ることわざ「下農は草をつくり 中農は稲をつくり 上農は土をつくり 上上農は人をつくり」というのが

あるが、善し悪しは別にして日本の農村は人づくりを大切にしてきた。その伝統は一部にまだ残るが、その風土も経済の高度成長や「家」意識の崩壊とともに失われてきている。だがその伝統に代わる新たな人づくりも始まっている。具体的にはUターン農民や新規参入農民、さらに女性農民の存在である。食料・農業・農村基本問題調査の答申にもあげられているように、現代は「あらゆる就農ルートを通じて多様な人材を確保し、これを育成する」時代である。

本書は、この現代日本農業の担い手であるさまざまなキャリアをもつ農民、具体的に学卒即農民、Uターン農民、新規参入農民、大規模経営農民、女性農民、高齢農民合わせて七人へのライフ・ヒストリー(生活史)手法による聞き書きと、一人の農民作家の農民文学三編に表わされた自分史、ならびに二人の農民の農業日記(作業日記帳)に表わされた記録のライフ・ヒストリー手法による分析を通して、現代農民の就農行動を明らかにしたものである。そして、それらを通じて現代社会に求められる農民教育の論理を解明を試みたものである。

あとがき

私と農業担い手教育とのかかわりは二十七年になる。私は、制度上は農林水産省管轄の学校「鯉淵学園」、正式には民

間の農業者研修教育施設、に昭和四十七年就職した。この学園は全国から学生を募り、農民教育にあたってきている。したがって、学校としての性格は研究より教育に比重がかかる。

そんな私が担い手教育の研究に入るのは、恩師濱田陽太郎先生の著書「近代農民教育の系譜」との出会いがきっかけである。この本の中で先生が手がけられた「農民の学歴取得」の意味を、鯉淵学園の学生たちの家庭環境において調べ上げてみることからであった。この研究は何回かに分けて日本教育学会でも発表し、成果も論文にしてまとめた。

その後、私は地元茨城県とかかわりをもつようになった。県内の農業後継者に関する調査と、彼らへの指導が主であった。それはさらに、農業婦人・農業女性へと広がり、さらに全国レベルでも濱田先生との間で共同調査研究の機会をもたせて頂いた。昭和五十四年(一九七九)から四年間続いた全国農業会議所の「農村地域リーダーに関する調査」であった。そこで先生の取られた調査研究方法が、「農民のパターンタイプ」類型に関する研究(「東京教育大学農学部農村経済学教室、一九六〇・六」)で用いたライフ・ヒストリー法であった。農民がリーダーとして育っていく過程を解明することで、リーダー育成に必要な教育の論理を見出すという試みであった。以後、私の農

業青年、農業婦人・農業女性の調査研究もライフ・ヒストリー法が基本になった。

この背景にはそれまでにとってきたアンケート式の統計的調査法に限界を感じていたことがあった。要は農業後継者教育・農業担い手教育といった、人間が就農に向けて行動を引き起こすような「教育」の論理解明には、アンケート調査のような定量分析では不十分であるということであった。就農行動というような人間の意識の成長を促すような構造を明らかにするにはライフ・ヒストリー法のより個別的調査法の方がよりベターであるということであった。これらの成果をまとめたのが拙著『ザニューファーマー』であった。

哀悼

富山県支部 東 利昭(3)

平成十年十一月五日 逝去

鯉淵学園同窓会様

鯉淵学園同窓会会報を永い間送っていただいております。有難うございます。

主人 東利昭につきましては、平成十年十一月五日、交通事故に遭い、死去いたしました。

鯉淵学園同窓会の方々との賀状の好誼もありました。彼の学園での想いは、生涯忘れておりませんでした。話してくれました宿泊研修の同部屋の方達との様子については、今も私の心に残っております。

日頃の彼は努力家で、他人の面倒もよくみ、皆様から可愛がってもらい、その後、勲五等瑞寶章をいただきました。

鯉淵学園ありがとうございます

同窓生皆様のご健康とご活躍をお祈りいたしております。

平成十一年十二月八日

東 利昭(妻) 東 美子



「東利昭さんの手紙（前号の続き）」

加藤成一さんの手紙（前号の続き）

祝日：たまには、昼食か夕食の外食をします。中華料理か日本料理です。（日本料理店は5軒有ります。いずれも高いです）映画館も有りますが、ほとんどスペイン語です。若い人の行く場所です。日本の歌の歌えるカラオケ店は2軒有りますが、滅多に行きません。

わが家にはラジオは有りますが、時々日本の短波放送を聞く程度です。またテレビも有りますが、何か事件が起きた時か、天気予報を見るぐらいです。（聞くのではありません）。唯一の楽しみは、子供達への国際電話です。これが高くつきます。そして日本から来た人が持ってきた週刊誌、雑誌・本の廻し読みです。

このように変化の少ない生活です。活性化のためには、やはり人を呼ぶパーティーをすることです。カウンターパートを家に呼んで、庭でアサード（焼肉）パーティーをします。メイドや運転手が張り切ります。時には、楽団を呼んで盛大にやります。アルファと言うハーブの様な楽器の演奏、マリアッチ（メキシコ風4人の楽団）の演奏で食事と談笑を楽しみます。しかし、参加者が演奏に合わせて歌を歌う様な事は有りません。もっぱら聞くだけです。本当におとなしいです。

時には、青年海外協力隊の人や、独身・単身赴任の専門家も家に呼んで、家庭の手作り料理を御馳走します。お婆さんの野菜の煮物料理が人気です。

このように、パラグアイの生活はゆっくり、質素に、穏やかに過ぎていきます。ふと、日本の生活は、なんと忙しく、騒々しく、エネルギーな事かと思えます。興味と時間の有る方はパラグアイにお越し下さい。大歓迎します。それでは日本でお会いする日まで

おわり